

| 項目 | 確認事項 | 届出内容 |
|-----------------------|---|---|
| 基本情報 | 大学等名1(代表大学等) | 金沢大学 |
| | 大学等名1(代表大学等)※カナ | カナザワダイガク |
| | 大学等名1(代表大学等)学校所在地 | 中部地方(愛知県を除く) |
| | 大学等名1(代表大学等)学校種別 | 国立大学 |
| | 大学等名2(連携大学等) | |
| | 大学等名2(連携大学等)学校所在地 | |
| | 大学等名2(連携大学等)学校種別 | |
| | 科目名 | インターンシップ |
| | 学部・研究科等名 | 人間社会学域国際学類 |
| | 担当教職員名・役職 | 上田長生・准教授 |
| 基本情報 | 受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数 | 10 |
| | 受入企業等数 | 12 |
| | 受入企業等名 | アンコール遺跡整備公団、株式会社テレビ金沢、石川県国際交流協会、専門学校アリス学園、富山県庁、富山県教育委員会、福井県総合福祉相談所、四季倶楽部熱海望洋館、株式会社菊池金型、石川労働局、長岡市役所、石川県観光戦略推進部 |
| | インターンシップの分類 | 3.海外インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ 11.その他 |
| | 上記以外のインターンシップの分類(記述欄) | 「専門学校アリス学園」における日本語教育実習をメインとしたインターンシップ |
| 要素① | 1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。 | 1.はい |
| | 1-2.該当する就業体験 | 1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例: ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等) |
| | 1-2.以外での就業体験の内容(記述欄) | |
| | 1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 民間企業や官庁・自治体、NGO・NPO等において営業・接客など実際の就業体験を行うことにより、学問を学ぶ意味を実践を通じて理解させるとともに、自らに適した将来の進路を選択する能力の向上を図る |
| 要素② | 2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。 | 1.はい |
| | 2-2.該当するインターンシップの内容 | 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している |
| | 2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄) | |
| | 2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄) | 3年次 |
| | 2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄) | 2単位 |
| 2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 本学類共通専門科目「インターンシップ」を履修し、マナー講座の受講を含む事前指導や日報・評価報告書などの提出とそれに対する個別指導など、特定のプロセスを経た学生に対して、2単位の認定を行う。 | |
| 要素③ | 3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。 | 1.はい |
| | 3-2-1.該当する事前学習の内容 | 1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している |
| | 3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄) | |
| | 3-2-2.該当する事後学習の内容 | 1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている |
| | 3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄) | |
| | 3-2-3.該当するモニタリング | 3.その他 |
| | 3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄) | 海外インターンシップ実施時には、教員が学生の引率・生活管理・業務指導の補助をし、他のインターンシップ中にも必要に応じて担当教員が面談により随時指導する。 |
| | | |

| | | |
|--------|--|---|
| | 3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄) | 学類生が1年次に受講する導入科目「大学・社会生活論」などにおいて、キャリアパス形成の考え方、就職活動の最近の動向について講義を行い、インターンシップへの取り組みについての啓発を行う。また、年度初めには3年生を対象に詳細な「インターンシップ説明会」を開催し、インターンシップの流れを学生に着実に把握させ、実施への準備を補助する。 |
| | 3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄) | 本学類の共通専門科目「インターンシップ」の履修にあたっては、「評価報告書」「日報」などの提出が義務づけられており、インターンシップ先での業務経験で得られた学びの振り返りの機会を設け、学生が将来のキャリアパスにインターンシップ経験を生かすことができるような仕組みを構築している。 |
| | 3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄) | 当学類では、アンコール遺跡整備公団における海外インターンシップを実施している。このインターンシップ実施の際には教員が引率を行い、現地での生活管理・業務指導の補助を行う。それ以外については、インターンシップ中に必要に応じて担当教員に状況を報告するように指導している。 |
| 要素④ | 4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。 | 1.はい |
| | 4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み | 1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている |
| | 4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄) | |
| | 4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 本学類の共通専門科目「インターンシップ」の履修にあたっては、「評価報告書」「日報」などの提出が義務づけられており、インターンシップ先での業務経験で得られた学びの振り返りの機会を設け、学生が将来のキャリアパスにインターンシップ経験を生かすことができるような仕組みを構築している。 |
| 要素⑤ | 5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。 | 1.はい |
| | 5-2.該当する実施期間 | 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している |
| | 5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄) | |
| | 5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄) | 実施期間は平均して5～6日間(うちインターンシップ実施30時間以上を義務づけている) |
| | 5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄) | |
| | 5-2.以外の実施期間の内容(記述欄) | |
| | 5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 本学類では実習の実施時期を夏休みの1～2週間の間と想定し、その期間内に30時間以上の業務を体験することを単位認定の条件としている。 |
| 要素⑥ | 6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。 | 1.はい |
| | 6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容 | 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している |
| | 6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄) | |
| | 6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 国際学類キャリア形成支援委員会は、学生の提出する「日報」「実習結果報告書」、受入企業・機関の「評価報告書」に基づき、成績の評価及び単位の認定を行う。 |
| | 7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL | 別途提出済み |
| 問い合わせ先 | 大学等名 | 金沢大学 |
| | 担当部署名 | 人間社会系事務部学生課教務係(大学院) |
| | 担当者役職名 | |
| | 担当者氏名 | |
| | 電話番号 | 076-264-5554 |
| | メールアドレス | n-kyomu@adm.kanazawa-u.ac.jp |